

# 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

おかもと やすたか  
岡本 康孝 (さけますセンター 業務推進部)

## 2007 年の北太平洋

### 漁獲数

第 16 回 NPAFC 年次会議における各国の報告によると、2007 年 1-12 月の北太平洋の漁獲数は 5 億 1,116 万尾で、前年の 3 億 8,872 万尾より 32% 増加しました (図 1A)。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い 3 億 4,962 万尾で全体の 68% を占めており、前年の 2 億 2,553 万尾に比べ 55% 増加しました。次いでサケが 9,632 万尾 (構成比 19%, 対前年比 95%)、ベニザケが 5,897 万尾 (構成比 12%, 対前年比 107%) と続き、これら 3 魚種で 98% 以上を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ 518 万尾 (対前年比 96%)、109 万尾 (対前年比 83%) となり、3 年続けて減少しています (図 1A)。

地域別では、ロシアが 2 億 1,323 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 2 億 1,301 万尾、日本 7,630 万尾、カナダ 832 万尾、WOCI (ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州) 25 万尾、韓国 6 万尾と続いています (図 1B)。

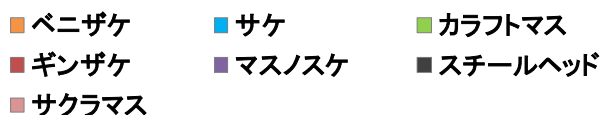
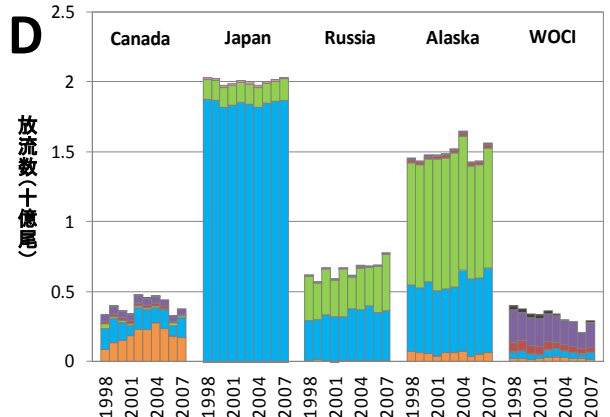
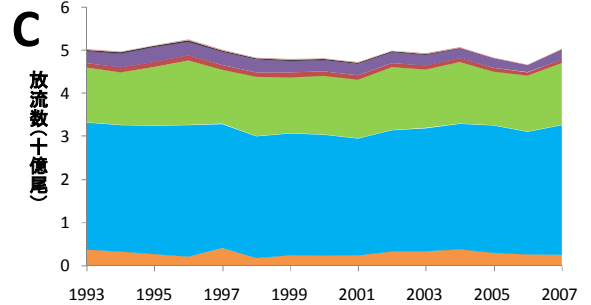
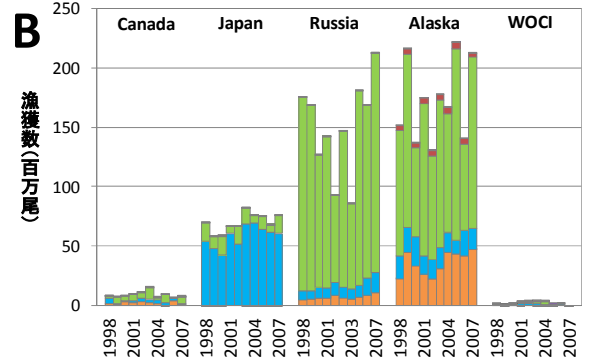
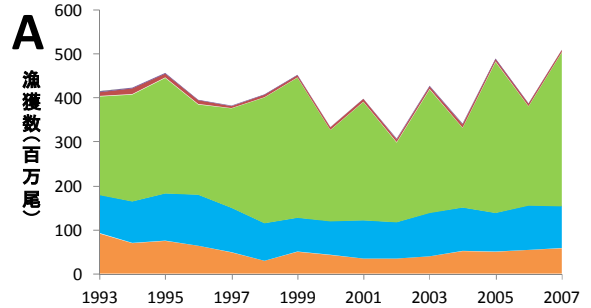
### 人工ふ化放流数

2007 年 1-12 月に人工ふ化放流された幼稚魚数は 50 億 3,856 万尾で、前年の 46 億 8,152 万尾に比べ 7.6% 増加しました (図 1C)。

魚種別ではサケが 30 億 2,942 万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの 14 億 2603 万尾と合わせると全体の 9 割近くを占めます (図 1C)。

地域別では日本が 20 億 3,456 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 15 億 6,170 万尾、ロシア 7 億 7,524 万尾、カナダ 3 億 7,859 万尾、WOCI 2 億 7,466 万尾、韓国 1,381 万尾と続いています (図 1D)。

図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A), 地域別魚種別の漁獲数 (B), 北太平洋におけるさけます類の魚種別人工ふ化放流数 (C) 及び地域別魚種別の人工ふ化放流数 (D). 1993-2004 年は「NPAFC Statistical Yearbook」による商業漁獲数の確定値だが、2005 年以降は NPAFC 年次報告等で示された暫定値である。1998 年までのロシアには EEZ (排他的経済水域) で他国が漁獲したものを含む。WOCI はワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともにわずかなため、図では省略している。



2008年度の日本

サケ

2008年度の来遊数（沿岸での漁獲と内水面での捕獲の合計）は1月10日現在で5,268万尾、前年度同期比77.5%となっています（図2）。来遊数の年変動をみると、2000年度を境に増加傾向に転じ、近年は高位で安定していましたが、今年度は再び2000年度前後のレベルまで減少しています。採卵数は1月10日現在で20億9,457万粒を確保し、放流数もほぼ計画どおりの17億9,850万尾程度となることが見込まれます。

カラフトマス

主産地である北海道における2008年度来遊数は693万尾で前年度比46.5%と大きく減少しました。カラフトマスの来遊数は1994年に急増して以来、隔年の資源変動を示し、1994-2002年の偶数年級群での平均が1,500万尾、奇数年級群のそれは700万尾で、両者にはおよそ2倍の開きがありました。しかし2003年からその傾向が崩れ、豊漁年と不漁年の順序が逆転しているように見えます。2008年度についても、偶数年でありながら少ない来遊数となりました。なお、採卵数は1億7,622万粒でほぼ計画どおりのため、放流数も計画の1億3,400万尾程度となることが見込まれます（図3）。

サクラマス

2008年度の北海道における河川捕獲数は24,619尾で前年度比237%と大幅に増加しました。採卵数は426万粒で前年度比83%となりました。なお、本州の資源については現在調査中です（図4）。

ベニザケ

2008年度の河川捕獲数は562尾で前年度比60%となり、大幅に減少しました。採卵数も37万粒と前年度の半数以下に減少しました。当センターでは北海道の3河川（安平川・静内川・釧路川）でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいます。

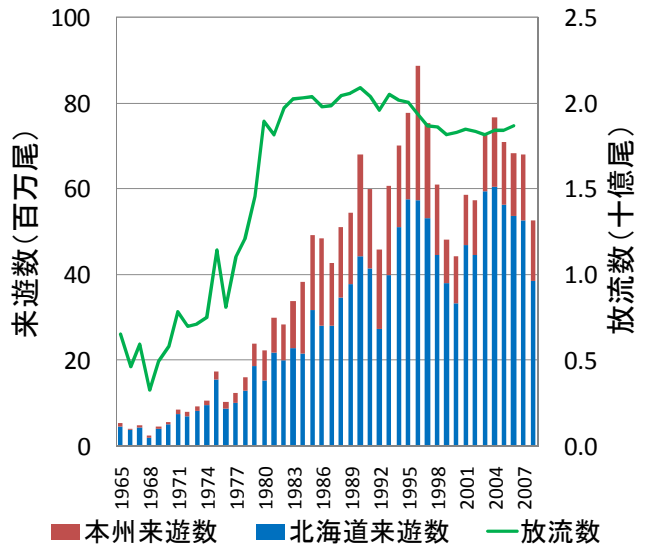


図2. 1965-2008年度の日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2008年度来遊数は1月10日現在。

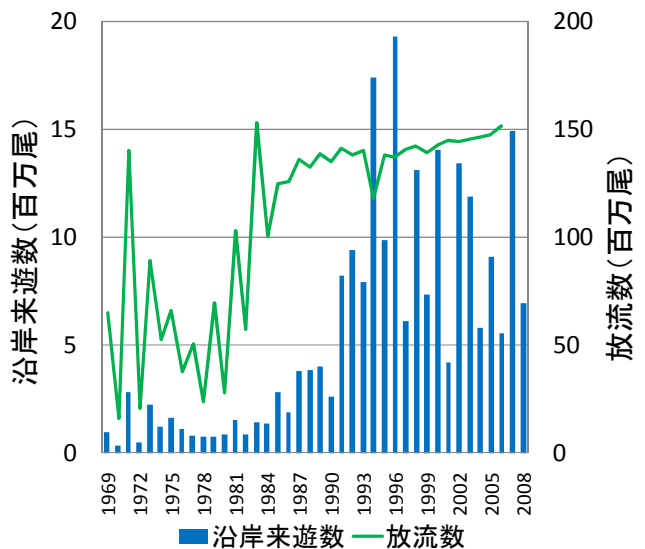


図3. 1969-2008年度の日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

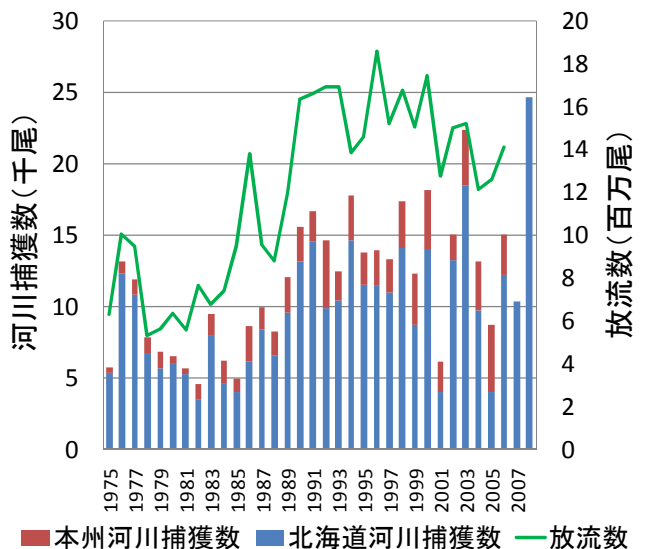


図4. 1975-2008年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。